

緊急シンポジウム

大学の管理強化の時代に 哲学で抵抗する

緊急参戦決定!

國分功一郎 重田園江
大河内泰樹 細見和之

昨年度に続き、東京大学の國分功一郎さん、明治大学の重田園江さんをお招きして、現代社会における大学の役割と可能性を考えるシンポジウムを開催します。

東京大学では、総長の「リーダーシップ」のもと、拙速な学費値上げの動きが浮上し、学生からの抗議活動が活発化しました。大学改革や教育のあり方への関心が高まっている今、私たちは改めて大学の役割を問い直し、未来への展望を議論する必要があります。

本シンポジウムでは、「運動」にも関心を寄せつつ、「哲学」を軸に現代の大学を考えます。國分功一郎さんは「ドゥルーズの〈生涯教育〉批判」、大河内さんはヘーゲルのいう「人生の日曜日」としての大学論、細見さんは最近のレヴィナス論の傾向について、重田さんは最近の明大の状況とフーコーの権力論について、それぞれ講演を行い、その後参加者とともにディスカッションを行います。奮ってご参加ください。

8月10日(土) 17:00~20:00

場所: 京都大学吉田南キャンパス
人間・環境学研究棟地下大講義室
(吉田南構内の「89番」の建物の地下です)

入場無料
参加自由

登壇者

國分功一郎(東京大学)
重田園江(明治大学)
大河内泰樹(京都大学)
細見和之(京都大学)

司会

松本卓也(京都大学)